

ウォーキングコース(句碑の道)

～昔を偲ぶ句碑の道をゆく～



写真：本城克己

編集・発行
のら里くら里健康バーチャル
ウォーキング実行委員会
事務局：千葉県印旛郡栄町安食301-1
0476-85-1661
e-mail info@hitomati.net

⑤ 高浜虚子
たかはまきよし
「水温む 利根の堤や
吹くは北」



栄町には多くの俳人が訪れていたのですね。



長門橋たもと

⑥ 高野素十
たかのすじゅう
『夜振の火 方々に燃え
沼に燃え』



安食小学校
坂道中程

大正六年にこの地を訪れ、長門橋のたもとから高瀬舟に乗り、大漁節などを大合唱し大いに楽しみ、長門川から利根川を下りながら詠んだ句。碑文にはその時の様子が詳しくきざまれている。

昭和二十二年、この地を訪れたとき安食小学校の高台に立つて詠んだ句。夜振は暗夜、松明などを灯して行う漁で、印旛沼で行われていた様子がわかる。



ちょっと より道

◆柴漬って何？漬物ではないですね。

水原秋桜子の句に詠まれている柴漬はふしづけと読みます。弥生時代ごろから始められた漁法で、主に冬場に行われました。柴（雑木の小枝）を束ねて川や沼に沈めておき、そこに小エビや雑魚が入って来たところを、大きな網で採る方法です。

① 荒木東卓
あらかきとうかく
「菜の花や 利根の堤の
大曲り」



成田山新勝寺第十八世大僧正の句。大僧正が従者を伴い、お忍びで利根の堤を逍遙された時に詠んだものである。碑は親交のあった梶谷光之助氏が建立。



長門川公園

② 篠田麦子
しのだばくし
「月の出の 川面あかるし
くつわ虫」



長門川公園

栄町興津生まれ。本名篠田信男。東京都消防総官となり、防衛の大任にあたりながら、俳句を愛し水原秋桜子に学ぶ。碑は栄町消防団建立。

③ 小林竹清人
こばやしちくせいじん
「台風の 兆の
みゆる 浪がしら」

栄町長門谷生まれ。本名小林宗一郎。長門橋のもとに荷揚げされる海産物などを販売しながら高浜虚子などと句会を開催。碑は子息勝彦氏建立。



長門幼稚園裏

④ 水原秋桜子
みずはらしゅうおうし
「柴漬や古利根
けふの日を沈む」



甚兵衛橋

昭和五年頃この地方に古くから伝わる柴漬の探求にしばしば、訪れていた。たまたま橋上より将監川の葦原に沈む日の美しさにたまたま詠まれた句である。